

# JAMの主張

## 活動ギアのシフトアップを!! 職場の声を政治に届ける戦いへ

【機関紙JAM・2021年11月25日発行 第274号】

10月末に行われた総選挙。自公連立与党が議席を減らしたものの、絶対安定多数を確保。全体として議席増の野党側は、維新が大きく議席を増やす一方、立憲民主党が13議席の減。国民民主党が伸びたものの、立憲、国民の両党の勢力拡大をめざした私たちにとって、与野党のバランスも大きく変えることもできず、大変残念な結果となった。

来年は参議院選挙の年。基幹労連との強力なタッグを組んだJAMの「村田きょうこ」の取り組みが、本格化してきている。

“良識の府”と言われる参議院は、選挙も衆議院とは異なる方法になっている。衆議院が、定数1の小選挙区をベースに政権選択を迫るのに対し、参議院は職域代表を国会に送り出すことができる全国・比例代表選挙が行われる。連合を構成する主な産業別組織は、昭和の時代から、職場の声や産業政策の実現に向けてこの戦いに挑んできた。

きょうも、JAMの代表「村田きょうこ」は勝利に向けて、連日、強力なステップを踏み続けている。コロナ禍のもとでリモートによるアクションを強化し、JAMの地方・地協・単組の各段階での活動現場にアクセス。可能な限り双方向のディスカッションに挑んでいる。その主張・政策、人柄に接するにつれ、JAM内にも続々と「村田きょうこ」ファンが増えている。

それでも、すべての組合員が「村田きょうこ」に接することは物理的に不可能だ。組合員への認知・浸透はまだまだ不十分な状況にあり、組織のリーダーがなお一層説いてまわらなければ、戦いは成立しない。

「村田きょうこ」の戦いは、政権を選ぶものでも、政党を選ぶものでもない。ものづくりの、中堅・中小・地場の職場の声を政治に届ける戦いだ。

あなたの笑顔を見たいから—。笑顔の選挙結果が迎えられるよう、この段階で活動のギアをシフトアップしよう。

副書記長 椎木盛夫